

『龍谷大学グローバル教育推進センター研究年報』執筆要項

2017年10月

『龍谷大学グローバル教育推進センター研究年報』

編集委員会

1. 原稿は、A4版の用紙に横書きとする。テキスト様式で保存したものを電子メディア（USBまたはCD）と一緒に提出する。字数は2万字（英語の場合は7,000 words）を上限とする。
2. 原稿の表紙に題名、英文タイトル及び氏名（和文および英文）を明記すること。なお氏名の英文表記は、姓（大文字）名（頭文字のみ大文字）とする。
3. 原稿は現代かなづかい、および常用漢字を使用し、引用文等で旧漢字を使用する場合は明記すること。
4. イタリック体、ゴシック体（又はボール体）の場合はアンダーラインを引いてその旨指定すること。
5. 「注」は「後注」とするために別紙にまとめて最後を書くこと。注番号は本文中の右肩に（1）、（2）……のように書き、通し番号とすること。
6. 図および表は、その挿入箇所を指定すること。図の見出しは、○図□とし、図の下中央につけ、表の見出しは、△表□とし、表の上中央につけること。必要に応じて出典を明記すること。ただし同一出典の場合は注としてまとめて明記することができる。
7. 原稿中における章・節および項は、原則として次の記号を用いる。
章 I, II, III……（ローマ数字大文字）
節 1, 2, 3……（アラビア数字）
項 （1）、（2）、（3）……（括弧付アラビア数字）
8. 本文中に入れる引用文は、和文は「」、英文は“ ”とし、引用文中の引用についてはそれぞれ『 』、‘ ’を用いる。ただし独・仏・中・西・葡等はそれぞれの慣行に従う。また、地の文と区別する長い引用文は、符号をつけず上下（左右）を各1行ずつあけ、和文・欧文頭を2字下げる。
9. 和文、漢文の著書名・雑誌名・新聞名は『 』、論文名は「 」で囲むこと。欧文の書名・雑誌名・新聞名はイタリック体を用いること。
10. 和文の引用文献および参照・参考文献の表示は以下とする。
 - （1）単行本：著者名、訳者名、出版年、書名、出版者、引用および参照ページの順とする。
例：湯本信夫（1955）『幼児の自然観察』牧書店 pp.50－52
 - （2）論文集の論文：著者名、出版年、論文名、編者名、書名、出版者の順とする。
例：岡本夏木（1973）「認知発達」藤永保編『児童心理学』有斐閣
 - （3）雑誌の論文：著者名、出版年、論文名、雑誌名、巻号、引用および参照ページの順とする。
例：田中淳（1999）「災害弱者対策」『言語』28（8）pp.17－45

11. Web サイトから引用する場合は URL (アドレス) を明示すること。
12. 欧文の引用文献および参照・参考文献の表示は以下とする。
 - (1) 単行本 (和訳のない場合) : 著者名、書名 (イタリック体)、出版地、出版者、出版年、引用および参照ページの順とする。
例 : アメリカ式
Osterbrock, D., *Astrophysics of Gaseous Nebulae* (San Francisco, 1974), p.25, pp.34–35.
 - (2) 単行本 (和訳のある場合) : 著者名、書名 (イタリック体)、出版地、出版社、出版年、引用および参照ページの順とする。
例 : Marett, R.R., *Threshold of Religion* (New York, 1909), p. 50
(竹中信常訳、『宗教と呪術』、誠信書房、1941、p.100)
 - (3) 論文 : 著者名、論文名、雑誌名 (イタリック体)、巻号、出版年、引用および参照ページの順とする。
例 : Feister, I., "Numerical evaluation of the Fermi beta-distribution function" *Physical Review*, 78, (2000) p.375
13. 欧文の注で示した書名を再び記す場合には、次の略語を用いる。
 - (1) *ibid.* ……同一の著者、同一の著作 (書名) を連続して言及する際に用いる。
(ページ数を示す必要あり)
 - (2) *loc. cit.* ……同一の著書、同一の著作、同一のページを連続して言及する際に用いる
 - (3) *op. cit.* ……注の中で一度示した著作を幾つかの注を隔てた後、再び言及する場合に用い、著者とページ数を共に示すことが必要。
なお、*ibid.*および *loc. cit.* は文頭に用いた場合は *Ibid.*、*Loc. cit.* となる。
また、和文の場合は、同上ないし前掲書としてもよい。
14. 原稿中の主要語句を 5 語以内の「キーワード」(和文および英文) として本文の前に記すこと。
15. 抜刷は 30 部とし、それ以上は執筆者の実費負担とする。
16. 校正は初稿、再校においてのみ若干の行の移動、文章の補遺などを認めるが、なるべく体裁を変更しないことを原則とする。三校 (最終校) は編集委員会にて行う。
17. 以上の各項目およびそれ以外のすべての募集、執筆事務については、編集委員会にその権限を委ねるものとする。

以 上

注) 龍谷大学グローバル教育推進センター研究年報は、掲載原稿を電子化し、N I I 論文情報ナビゲータ CiNii (サイニイ) にて公開しております。原稿を提出いただくことで、著作権に関する許諾を得たものといたしますのでご了承願います。